



衣川 正介

『播磨国風土記』3 敷草村

『播磨国風土記』宍粟（しさを）郡柏野里敷草村条に以下の記事があります。
現・宍粟（しそ）市千種町のことです。

草を敷きて神の座と為しき。故に敷草といふ。此の村に山あり。南方に去ること十里ばかり、二町ばかりの沢あり。此の沢に菅生じ、笠に最も好し。檜・杉・栗、黄蓮・黒葛生ふ。鉄を生ず。狼羆住む。



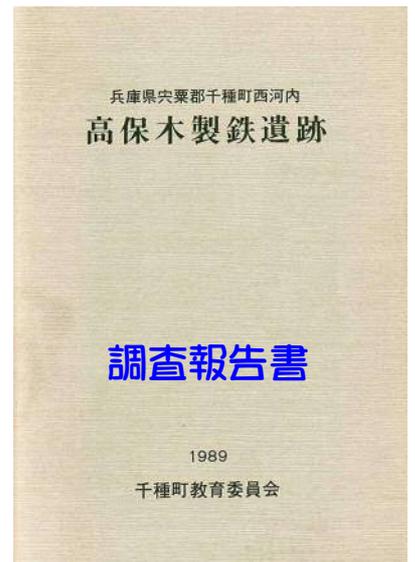
わたらの里学習館

千種（ちぐさ）町は古くから人が住み縄文時代早期の土器が出土し、弥生時代の住居址も発掘されています。『播磨国風土記』にも、鉄を産したことが記されています。以来、明治初期に至る数百年間、製鉄が盛に行われ、その質は優れ『千種鋼』として、中世、近世の名刀の原材料として、重宝されました。現在、国宝、重要文化財に指定されている名刀も『千種鋼』で作刀したとの銘も多く残っています。

千種町では、昭和42年秋、町の森林組台の苗畑造成工事中、西河内字高保木（たかほぎ）で製鉄の炉床を10余箇所発見しました。当時製鉄遺跡の発掘調査は珍しいことでしたが、日本考古学協会、製鉄部会の岡山大学和島誠一教授に、その調査を依頼しました。そして、43年 3月20日から約 2週間、全国の関係者が調査に参加し、貴重な発掘をすすめて頂きました。ところが、調査団長の和島誠一教授が、調査報告書作成途中、不幸にも病で倒れられ、帰らぬ人となりました。報告書は20年後に引き継がれ平成元年に完成し、高保木遺跡が大室の頃（701～704）と推定されています。

町では、明治18年まで操業した「天兒屋鉄山」（てんごやてつざん）の跡地を利用し天兒屋たたら公園としています。その広さは1ヘクタール、鉄筋コンクリート二階建ての『たたらの里学習館』では、地域のたたら製鉄の歴史や工程について学習したり、たたら作業を描いた絵や、鉄穴流しの唄などが聞けるコーナーもあります。天兒屋鉄山遺跡の模型なども展示されています。私は展示物の『千草鉄（宍粟鉄）の略年表』に興味を持ちました。最初は大化・白雉の頃（645～654）として播磨国風土記の讃容郡鹿庭山の製鉄。次は敷草村・金内川、鉄を産す。三番目の記事は大室の頃（701～704）として佐用郡南光町西下野金屋製鉄炉跡、続いて千種町西河内高保木製鉄炉跡。次の記事は200年ほど後、永延1年（987）、家時・助時、宍粟郡に居住し細身の直刀を作る。文書に現れる鉄や鍛冶屋は希なことですが、鉄の生産は延々と続いていたのでしよう。

『たたら場』の跡地は石垣に囲まれた平地に倉庫・鉄池・勘定場・山内小屋・馬小屋などの跡があり、白杭に『高殿（たかどの）』などと表示されています。



調査報告書



金屋子神



天兒屋鉄山跡地



『鉄のふしぎ博物館』

来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感

ホームページと電子メールをご利用ください。

<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
ryou@memenet.or.jp

参考図書

兵庫県宍粟郡千種町西河内 高保木製鉄遺跡 平成元年（1989年） 千種町教育委員会